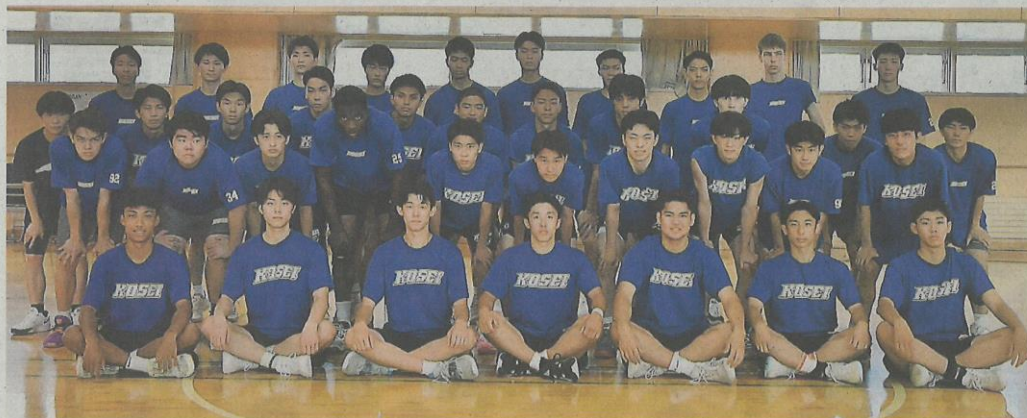


ハードな守備で8強以上を

県勢60年ぶり東北V 光星男子バスケット部



【写真上】6月の東北高校選手権で頂点に立った八戸学院光星高男子バスケットボール部【同下】3対3の対人練習に臨む部員

来月、インターハイ練習に熱

八戸 県高校総体(5月31日～6月3日)を制した八戸市の八戸学院光星高校男子バスケットボール部が、岩手県で行われた東北高校選手権(6月22、23日)で初の頂点に立った。青森県勢の優勝は1964年以来60年ぶり。快挙を成し遂げた選手たちは、8月4日から福岡市で開かれる全国高校総体(インターハイ)に向け、練習に一層熱が入っている。(中村篤希、棟方好華)

東北高校選手権の男子は計16校が出場。初戦、花巻東高(岩手)に97-60で勝利すると、準々決勝は6年連続でウィンターカップに出場した強豪・羽黒高(山形)に72-69で辛勝。波に乗ったチームは準決勝、秋田工業高に73-69の僅差で競り勝った。前年覇者の福島東稜高との決勝は、第3クォーター(Q)終了時に52-52の同点。ただ、第4Q、3Qからマンツーマンに切り替えたディフェンスが機能。カウンターで好機を作ると、要所で角谷(1年)が3点シュートを決めて点差を広げ、67-60で勝利した。

八学光星高は5日、東北高校選手権優勝を祝うとともに、インターハイ優勝を祈念する垂れ幕を校舎に掲示した。同日の練習は約2時間、同校の体育館で実施。基礎的なフットワーク練習を終えると、新チーム発足から抱えているコミュニケーション不足を補うべく、互いの動きや相手の守備に依りて動きを交えるセットプレーの練習に励んだ。顧問の佐々木彰彦教諭から「ディフェンス側が本気でやらないと練習の意味がない」など、とげきか飛ぶと、より一層集中し、互いに意見を出し合いながら3対3、5対5の対人練習に臨んだ。

インターハイに向け、越田伊吹主将(3年)は「岩手県矢巾町出身は『東北大会では接戦を勝ち抜いてきた。磨いてきた』『ハードなディフェンスからの速攻』を武器に、ベスト8以上を狙っていきなさい」と、佐々木顧問は「相手の動きにどう素早く対応するかを意味する『リードアンドリアクト』をテーマに日々練習を重ねている。攻守の精度を上げ、インターハイに臨みたい」とそれぞれ意気込みを語った。

同校の初戦は8月5日、前橋育英高(群馬)と九州学院高(熊本)の勝者と対戦する。